

# 2018年度 第3回 人権教育推進教員研修会 事前アンケート(例)

## 『今年一番心に残った人権教育の取組を交流しましょう』

どんな取組が一番心に残りましたか	人権だよりの発行	担当	所属 ○○町立○○中学校 担当者名 フリガナ お名前
その取組を行うにいたる貴校の人権教育推進上の課題や現状	2016年度に施行された人権3法について(特に部落差別解消推進法)、職員会議で本校教職員集団に法律が施行された旨の説明をしたときに、あまりにも話が一方通行になってしまい、本校教職員集団の様々な個別の人権課題などについての認識が弱いことに気が付いた。このことから、教師の日常的な語りかけによる、子どもたちの『様々な人権課題に気づくアンテナ向上』の補助を目的として、終学活で読んでもらうための人権だよりを発行しはじめた。		
今年一番心に残る取組の概要について  (系統立った取組の場合は、時系列を意識して書いていただくと、読み手の参考になります)	時期	実践内容(活動の記録)	実践のごたえ・印象
	4月中旬	通算4号「気持ち伝わる話し方」	○ 新学年の始まりの様々なトラブルの抑制のために書いた。教室内で通信を元に、指摘する姿が見られた。
	7月上旬	通算7号「水害や災害に遭ったとき」	○ 警報で休みになれ！という会話が大声でなされる。でも、本校には熊本の地震以降に転校してきた生徒もいる。様々な立場の人の思いを察することを促す意味で書いた。
	9月上旬	通算9号「全校登校日の話」	○ 3年生生徒会主催で、沖縄修学旅行の平和学習の報告と、県内の戦跡FWの報告ビデオを流した登校日の感想文を紹介した。一人の生徒の熱い文章を受け、本人と面談し掲載することにした。本人が明るくなった。
	10月下旬	通算10号「アンガーマネジメント」	○ クラスに入れない子、集団行動になじめない子に対し、怒り、排除する事象が目立つ。これへの注意喚起のために書いた。
	12月上旬	人権作文特集号「見えないけれども」	○ 相手に伝えられない思い、生活背景、自分の課題など、様々な相手の裏側を含めた“丸ごと”を理解しようとする姿勢を促すために書いた。担任は扱いに困ったと思う。
	2月上旬	通算12号「ダルビッシュ選手の話」	○ 「許す」ことから生まれることがある。問題解決の手法の1つとして覚えて欲しい、という気持ちで書いた。知っている子どもが多くいた。
その取組を通しての成果と課題	○ 直接の成果はわからないが、読んでくれている生徒はいて、私に対してその話をしに来てくれる生徒もいる。世の中の様々な課題に対する興味や関心はあるのだとわかった。そのニーズに応えられているかが疑問。 ○ 教員の質問カードをつけて試作品を置くことがある。ある学年の学年主任の先生は、この手の取組はボディブローのようにじわじわ効くものであるから、ずっと続けて欲しいと言われた。プレッシャーが…。 ○ 経験年数の少ない教員から、「この内容のこの部分がわからない」や「この通信のどこを1番強調して話せば良いでしょうか」という質問を受け、個別の課題や子どもとの向き合い方などについて、学年を超えて話す機会を持てた。これが人権教育をもう一度立ち上げていくための基礎工事だと思った。とても、期待感があつた。		
その他人権教員としての悩みや普段感じておられること	○ 様々な角度からの問題提起と、課題・問題を正面からとらえた文章の書き方の提案を、さらに他の人の文章なども参考にしながら研ぎ澄ませ、生徒・教職員・保護者に向けてさらなる発信を行っていきたいと思う。できれば定期的に発行するのが望ましいが、自分の感覚の鈍さか、ネタ探しに困る。 ○ さらには、全校朝会などの5分間等を使って、全校生徒向けに語って聞かせるような取組も進めたいかと思う。それが中堅層の教員からの教職員全体への貢献になることを願って。		

※ 別紙資料( あり ・なし )